

4 免疫チェックポイント阻害薬と BRAF 阻害薬の使い分け

How to use immune checkpoint inhibitors and BRAF inhibitors

藤澤康弘

FUJISAWA Yasuhiro

筑波大学医学医療系皮膚科講師

Summary

進行期悪性黒色腫の治療選択は免疫チェックポイント阻害薬と BRAF 阻害薬(+ MEK 阻害薬)があり, BRAF 変異がある症例で早い効果を期待する場合は BRAF 阻害薬をファーストラインとして選択するが, BRAF 変異のない症例では免疫チェックポイント阻害薬を使用する. 欧米のガイドラインでは, より効果の期待できる抗 PD-1 抗体がファーストラインとして推奨されており, 抗 CTLA-4 抗体はセカンドラインとして位置づけられている. また, より効果の期待できる抗 PD-1 抗体と抗 CTLA-4 抗体の併用は, 欧米ではすでにファーストラインとして使用可能であり, 近い将来, 本邦でも使用可能となる見込みである.

免疫チェックポイント阻害薬

免疫応答を調節する免疫チェックポイントを阻害する薬剤で, 現在使用可能なものは PD-1 に結合するニボルマブとペムブロリズマブ, CTLA-4 に結合するイピリムマブがある.

BRAF 阻害薬 / MEK 阻害薬

MAP キナーゼ経路の BRAF V600 に活性型変異をもつ悪性黒色腫に有効なのが BRAF 阻害薬であり, MEK 阻害薬併用で奏効率の向上と BRAF 阻害薬の副作用である皮膚腫瘍の発生が抑制できる.

KEY WORDS

免疫チェックポイント阻害薬 / BRAF 阻害薬 + MEK 阻害薬 / ガイドライン